





## 優秀賞

### えがお

結城市立城西小学校 一年 上野 春樹

えがおでいねばね、いやなこわすわちやうよ。

えがおでいねばね、かなしいこともわすれちやうよ。

えがおでいねばね、なみだまでまさえちやうよ。

えがおでいねばね、じぶんもしあわせになねるよ。

まわりもしあわせにねまいる。

わたしの「えがお」だよ。

だってだって、わははははをみよこせにえがおが

うしなへて

えがおでいねばね、まじいえがおがあつていねばね。

えがおでいねばね、まじいこじやがあねるよ。

ほへほ、みんなをえがおでいねばねだよ。

だからほへほ、まじいえがおでいねばね。

### 短評 優秀賞「えがお」

うねのうねのえがおのまわりにも、たぐさのえがおがあつていねばね。かなしいでいねばね、まじいこじやがあねるよ。みんながえがおでいねばね、まじいこじやがあねるよ。

ひやういんたでもまじい「えがお」は、たぐさのびやうまをなほおこす。えがおの「えがお」も、たぐさのうらやまかなしいでいねばね。えがおをわすれかけた世のなかに、うねのうねのえがおの「えがお」を、まじいこじやがあねるよ。えがおのうねのうねのえがお。



## 優秀賞

### ひまわり

結城市立結城西小学校 三年 登坂 悠生

ほきりとおれたひまわりのくき  
なげたボールが当たってしまった  
下に落ちたくきの先には  
かなしそうな小さな葉  
ごめんね ごめんね ごめんね ひまわり  
ほくは心の中であやまった

しばらくたって  
おれたくきのところに新しい葉  
うれしくなってよく見ると  
小さなつぼみも顔を出していた  
もう花はさかないと思っていたのに  
強いね ひまわり  
すごいね ひまわり

また少し日がすぎても  
ひまわりはとうとう花をさかせた  
ごめんねって言ったほくへ  
だいじょうぶだよって わらっているみたい  
やさしいひまわり

ほくもひまわりみたい  
強くてやさしい人になりたい

### 短評 「優秀賞」 「ひまわり」

登坂君はほんとうにやさしい、すなおなこころをまっとうしているのですね。詩をよんでいて感心しました。なげたボールがひまわりに当たって、くきがおれて、小さな葉をつけたままじめんにかなしそうにたわっているのを見たとき、どれほどかわいし、すまない気持ちでいっぱいになったことでしょうか。ひまわりにもたいせいなちががあることをよく知っているからです。だから残ったくきで小さな葉が出て、つぼみが顔を出し、だいじょうぶだよと笑ってゆるゆるとくねる姿が、「花をさかせたときのよろこびはどんなものだったでしょうか。私もうれしくなっていました。それだから、登坂君は、いのちを大切にするとよく、やさしい人になろうと心にきめたのですね。自然のなかでたいせいなことを学びましたね。

## 優秀賞

### 「お母さんの手」

結城市立山川小学校 四年 永井 優月

お母さんの

左側はお兄ちゃん

右側は私

お腹の上には妹

小さいときは、ねむくなるとお兄ちゃんと私の手をにぎって  
くれていた

お母さんの手

今はねむくなると、背中をなでてくれる

お兄ちゃんは、モミモミマッサージのおねだり

妹もいっしょにモミモミ、「チョ」

くすぶったくて大笑い

私もお母さんの痛い足をなでなで

「ニ」笑顔で「ありがとう」がとてもうれしい

お母さんの手があたたかくて、スヤスヤねむくなってる  
なんだか心がほっとする

ずっと、毎日、毎日

ずーっと

なでなでしてね

お母さん

### 短評 優秀賞「お母さんの手」

なんとあたたかな家族の姿でしょう。心がほっとして安らいだ気持ちになりますよ。お母さんが手をにぎってくれたり、なでなでしてくれたりするときの手のあたたかみ、「モミ」モミ、「チョ」チョには、私たちも体がくすぶったくなって「ニ」顔です。それに子どもたちのやさしさ。心のそこが安心した幸せな気持ちになります。それは、お母さんを中心に左側にお兄ちゃん、右側に私、真ん中のお腹のうえに妹と「う」絵にえがかれたような「お」の「こ」のなご安定した家族の姿が見えるかの。お母さんが回廊の子供たちを、お腹の上の妹のほっぺをさす姿を想像して「う」なみ。みんな「う」になってしまっただけの中、結晶が見えてきますね。うっすも仲良く幸せに。

## 優秀賞

### 一皮むけたぼく

結城市立城南小学校 五年 潮田 廉人

「ねーもー帰ろうよ」

言っても言っても母と姉は知らんぷり  
じわりじわり前におされる

「ゴォー」「ガガガ」「キヤー」

さけび声とジェットコースターの「ごうおん  
ぼくを追いつめる

じわりじわり前におされる

とうとうきてしまった

もうにげられない

ぼくはワナに引っかかったネズミだ

ポロポロポロポロ 男だって泣くん

ガガガビューン前におされる

グルングルン ガタンガタン

ぼくはせんたくきの中のタオルだ

目をぎゅっとつぶった

早く終わってくれ

止まった！

何にかわからないけど勝った気分

何か強い自分になったみたい

次の日生まれて初めて満塁ホームラン  
ジェットコースターのおまじないかな

### 短評 優秀賞「一皮むけたぼく」

はじめてジェットコースターに乗ったのだね。列に並んでいるときが一番  
こわい。運命のその時まで、なにか大きな力にじわりじわり押されるように  
進んでいく。がまんしていても体が小さくふるえる。さけび声と「ごうおん」が  
いっそう恐怖をあげる。そんな気持ち、よく分かるよ。わなになんか引っかかった  
ネズミだ。せんたくきの中のタオルだ。すごい表現だ。すごく感じがでて  
いる。それに怒られるかもしれないがなんとなく面白い。そして、ついに試験  
は終わった。これで一人前の強い「ぼく」になった。昔々、子供はこのよう  
な試験を乗り越えて、一人前の大人になる成人式のような儀式があった。潮  
田くんも乗り越えた。満塁ホームランがその証拠。頑張れ。

## 優秀賞

### 降った雪

結城市立結城南中学校 二年 大久保 采音

しゅしゅしゅ

ゆっくり降ってきた雪は

あっという間に広がって

一面真っ白雪景色

そのあとさくさく足音が

子供が一斉に飛びだして

楽しい声で外いっぱい広がった

子供が遊んで去ったあと

またしゅしゅしゅ

雪積もり

子供の足跡消えてい

### 短評 「優秀賞」降った雪

具体的には書かれていませんが、おそらく放課後のグラウンドか公園の雪景色でしょうね。しかし、どこの場所かということは作者にとってはあまり重要ではなさそうですね。もっと大切にしたいことは、雪が降り続いて、あたりはあつというまに真っ白になり、そこにどこから来たのか分からない、どこの子ともわからない雪の精のような子ども達がたくさん現れて、ひとときりにぎやかに楽しく遊ぶ声が出て、子供たちが立ち去ったあと、雪はその足あとを消しながら静かに降り続けているというどこか神秘的な印象なのです。たしかにそこにあつたり、いたりしたの「しゅしゅしゅ」と見るとなにもない白い広がり。自然の深い静けさと不思議さがよくとらえられていて感心しました。



## 優秀賞

### いもひや

茨城県立結城第二高等学校 二年 矢口 舞夏

うるやう  
すべに泣く  
ちよこまかするし  
私のお菓子も食べちゃうし  
テレビはアンパンマンじゃないと怒るし  
勉強の邪魔するし…  
ついでこの前は学校からの大切なプリント  
ぐっしゃぐっしゃに落書きされた  
でもね  
「ねえねだいいしゅきー！」  
って抱きついでくるの  
えへへへ  
可愛いでしゅひひ。  
私の妹

### 短評 優秀賞「いもひや」

矢口さんの家族の一員になって、にこにこしながら矢口さんの温かな愚痴を傍で聞いているような楽しい気分になる詩ですね。妹への深い愛が感じられて、それが何よりも良いところです。

難しい所はどこにもなへへ、さらりと書かれているように、丁寧に読むととても注意深く書かれています。何よりもまず、行の長さが、読み進むにつれて少しずつ長くなって行って、真ん中辺りになるともう息が切れそうですね。高まっていく感情と言葉と呼吸とが互いに密接に結びついていて、学校のプリントがぐっしゃぐっしゃと落ちてくるのは、もう最高点。それが妹の可愛いひびきで愛おしみが高まっていくにつれて、言葉もだんだん短く穏やかになってくる。詩の心地よいリズムとは、七五調などの形式的なものもありますが、心の高ぶり、静まりなでの内的な感情のリズムでもあるのですね。それをどうもへへ心得て書かれています。

## 優秀賞

### 写真を撮って

茨城県立結城第二高等学校 二年 湯浅 渚

携帯で一枚ずつ写真を撮りました  
狙いを込めて慎重に  
全ての主役を澄んだ空にして  
自分の思い通りに切ります  
青の空、夕焼けの空、月と星の空  
同じ空なのに違います  
私は不思議に思いました  
携帯で一枚だけ写真を撮ります  
ある日偶然見つけた  
青く青く濃い空の端に写る  
意識しなかったから見えた  
電柱、山、雑草、数え切れない  
ただの背景だけど美しかった  
あの日の景色をもう一度撮りたくて  
今日も私は探したい

### 短評 「優秀賞」写真を撮って

湯浅さんの詩を読んだとき、不意に、新川和江さんの詩「いちまいの海」を思い出しました。私の大好きな詩で、そこに／＼その海に／＼溺れもせずにわたしが釣り合ってたゆめたのは（略）／＼けざやかに引かれた喫水線をわたしがついていたからだと、という詩行があります。海が、詩人の抑えがたい激しい感情だとすれば、その感情に溺れないように、沈没しないように釣り合いを取っているのは理性の喫水線だ、ということのようですね。

湯浅さんの詩は、写真を撮るとき慎重に構図を意識してシャッターを切ったのに、出来上がった写真の片隅には意識もなかった背景が写っていて、そちらのほうの美しさに感動して、今度はそれを求めて撮り続けよう、という詩ですが、湯浅さんは、芸術の不思議に気づいたのですね。あれこれ考え、意識して創作しようとしても、芸術は、独自の生命を持つ生き物のように、自由に、思いがけない所に思いがけない美しい姿を現したりするし、だからといって意識をせずに偶然に身をまかせても、混沌の海に溺れてしまってもいけないということ。気ままな感情、本能、偶然の海と釣り合いを取る理知、理性の喫水線の関係、それをどうするかは湯浅さんがこれから考えていく問題ですね。

優良賞

おいわのすいか

結城市立結城小学校 一年 牧野 蒼

おいわのはじで そだてたすいか  
カラスにたべられないように  
はっぱでかくした だいじなすいか  
おひさまいっぱいあびたから  
びかぴか まんまる かわいいすいか  
「もういいかい?」  
「まあただよー!」  
おいしくなるまでかくれんぼ  
みどりがふかーくなったらね  
おじいちゃんが  
「もういいよー!」  
みどりとあかでクリスマス  
とってもあまい なつのあじ  
まなつのクリスマスプレゼント  
らいねんもいっしょにそだててね  
かくれんぼだよ  
おじいちゃん

優良賞

はなび

結城市立城西小学校 一年 河原 真咲

よるのおそらに  
はなびがあがる  
どーん どーん  
おおきなおとだ  
あかいはなびは  
ばらみだい  
きいろいはなびは  
たんぽぽみだい  
むらさきのはなびは  
あじさいみだい  
いろんなはなが さいてるね  
そらがまるで  
おはなばだけみだいだね

かくねくまのみ

結城市立城西小学校 一年 廣瀬 牙

かくねくまのみはね  
いそぎんちやくにかくねるよ  
かくねくまのみはね  
いそぎんちやくのどくもへいきなんだよ  
だからかくねくまのみよ  
いそぎんちやくは なかよこつてじつだね  
かくねくまのみはね  
くろじろとおねんじいろのからだだよ  
いそぎんちやくのいろはじろだよ  
かくねくまのみはね  
おおきいほうがおかさ  
ちいさいほうがおとうさんだよ  
かくねくまのみは  
いそぎんちやくのなかにはいつていろじきは  
どんなかんじなのか  
ふわふわしていてきもちよみそつだね  
わたしもいそぎんちやくのなかにいきたいな

たいようさま

結城市立城西小学校 一年 山中 千博

おーい。たいようさま  
どうしてそんなにがんばっているの？  
それともおこっているのか？  
そんなにもえてなくならないの？  
すこしはやすんだらどう？  
ぼくはとってもあついんだ  
がっこうのかえりみち  
たいようさまはぼくをひろくひろくひろく  
ぼくをじんじんとひろくひろくひろく  
あー。のどがかわいた。  
すいとつのもう。  
あー。からっぽだ。  
あー。じめんがゆらゆらしている。  
あー。のどがかわいたよー。  
そんなにいじめるなら  
いなくなっちゃえばいい  
あれ？きょうはあめだ  
たいようさま くものうさでなっているのかな  
あしたはあいたいな

優良賞

いじいじタンゴムシ

結城市立江川北小学校 二年 黒杭 美咲

いじいじいじがる

タンゴムシ

あれ、とまったよ。

あっ、ひらいた。

くるっとまわって

ちゃくちせいじじ。

あるきだしたら

とつてもはやい。かべにぶつかり右左

いじいじにまがるよタンゴムシ

さわったじ、

またまるくなったよ

おもころへてとつてもぶしぎ

いじいじいじがるタンゴムシ

優良賞

ふしぎなせかい

結城市立江川南小学校 二年 鈴木 璃子

ドキドキしながらのぞいてみた

キラキラ光るガラスのせかい

クルクルまわすとかわるせかい

パッとひらいてシュッととじる

カラフルなほう石が作るお花ばだけ

わたしはその小さなあなの中に入ってみた

ふしぎなせかいのひみつをしるために

つゆがきらめく雨上がりのアジサイ

大きくさいたまっ赤なハイビスカス

ちらばったクレパスみたいなチューリップ

ふしぎなせかいはつぎつぎにかわり

どこまでもどこまでもつづく

ますますなぞはふかまるばかり

ゆっくりゆったりとした時間がながれる

このせかいのまほうにかかったみたい

げんじつのせかいにもどったわたしは

ふとあたりを見た

何もかわらないいつものへや

また行こう

ちよっとひと休みして

小さなあなから

ふしぎなせかいへ

優良賞

ほへうごころの思ふ田

結城市立山川小学校 二年 永井 雅輝

あっ、ながれてきたよ大すきなそうめん。

じいじが竹で作った、ながしそうめん。トマトもながれてきたよ。

じいじがやいてくれたバーベキューのおにくおいしかったです。

じいじのひびにすわって見た花火もとてもきれいでした。まいとし、夏がくるのがたのしみでした。

じいじの家には大きな大きな木があります。あきになると真っ赤になっておちてきます。それをじいじとほうきで、おちばはきをします。じょうずだねとじいじは、いつぱいほめてくれます。うれしくてもっとおぼつたいをしようと思いました。

じいじは、木でいろんなものを作るのがとくで、ぼくには、木の車を作ってくれました。今もだいじにとつてあそびます。

いつぱい思い出はあるけど、みんな、たのしかったです。わすれないからむ。

天国のじいじ。

優良賞

わたしはわたし

結城市立結城西小学校 二年 永田 あやめ

わたしはわたし

おなかの中にいる時からわたし

生まれてからもわたし

小さくてもわたし

大きくなってもわたし

ウキウキしている時もわたし

どんよりしている時もわたし

お母さんになってもわたし

おばあちゃんになってもわたし

ひいばあちゃんになってもわたし

しんでもわたし

どんな時でも

わたしはわたし

優良賞

夏のセミ

結城市立結城小学校 三年 飯野 大翔

ミーン、ミーン  
ミーンミンミンミンミー  
ジージー、ジージー  
ツクツクボウシ、ツクツクボウシ  
短い夏の間だけ  
ひっしに鳴いているセミたち  
なを思って鳴いているのかな？  
おなかですいているの？  
お父さんお母さんをさがしているの？  
お友だちをよんでいるの？  
カナカナカナカナ  
ジジジジジ、シリシリリ・・・  
もうすぐ夏が終わる

優良賞

川の水

結城市立江川北小学校 三年 飯村 愛仁衣

水がどんどんながれてゆく  
魚といっしょにながれてゆく  
きれいな音でながれてゆく  
シャラシャラシャラと  
ながれてゆく  
川の水  
きれいな水  
きれいな色でながれてゆく  
葉っぱといっしょにながれてゆく  
どんどんどんどんながれてゆく

優良賞

スイカ

結城市立結城西小学校 三年 高橋 里菜

スイカのなえを植えた  
あまくて おいしい スイカになあれ  
つるがのびて 黄色い花がたくさん咲いた  
あまくて おいしい スイカになあれ  
はちが 花のみつをすっていた  
あまくて おいしい スイカになあれ  
ちいさな スイカの赤ちゃんができた  
あまくて おいしい スイカになあれ  
スイカの 赤ちゃんが少し大きくなった  
ぐんぐん ぐんぐん 大きくなあれ  
ぐんぐん ぐんぐん 大きくなあれ  
あまくて おいしい スイカになったかな

優良賞

雨

結城市立絹川小学校 四年 谷島 志歩

ポタン ポタン  
ジャー  
雨の帰り道  
「葉っぱくん 今日もきれいだね」  
という声が聞こえてきそう  
「そう？かたつむりくんもきれいだね」  
葉っぱがしゃべると  
会話が始まってきた  
「かえるくんもきれいだね」  
ほかのこもきて  
「雨もかがやいているね」  
とにぎやかになっていった  
雨がやむと  
「雨 やんちゃったけど 見てー！」  
そこにはにじができていた  
「にじ きれいだね」  
と言った声が最後に聞こえた



## 優良賞

### カヌー

結城市立江川南小学校 四年 石崎 夏葵

わたしは、この夏初めての体験をした  
家族旅行で、カヌーに乗った

3人乗りのカヌー

だれと乗ろうか？みんなでそうだんした

お姉ちゃんと、弟と、自分で乗った

一番前はわたしでまん中は弟 一番後ろは

お姉ちゃんに乗ることになった

カヌーの色は赤だった

わくわくした、最初はうまくいかなかった

でもどんどんうまくなっていってこぐのが楽しくなった

そしたら弟に水をかけられた

その水はつめたかった

お父さんたちが乗っているカヌーを見ると妹がねていた

すると、お父さんたちが乗っているカヌーが

こっちに向かってきてぶつかりそうになった

カヌーを下りて空をみ上げると空はきれいだった

## 優良賞

### 花

結城市立結城西小学校 五年 石塚 妃菜

昼休み、校庭に出ると、

花だんに花がさいていた

チューリップやパンジーなどの

きれいな花がたくさんさいている

花をしばらくながめていると、

心地良い、優しい風がふいてきた

花のダンスパーティーが始まった

花だんにさいた花たちは、

いっせいにおどりだした

赤やむらさき、黄色の

きれいなドレスを着て、

てんとう虫やちょうの、

かわいらしい宝石をつけて、

みんな仲良くおどってる

風がふき終わると、

花たちのダンスパーティーは終わった

私もあんなにきれいなドレスを着て、

あんなにかわいい宝石をつけて、

花たちといっしょに

おどってみたいなあ

優良賞

けしごむ

結城市立結城西小学校 五年 上野 夏萌

けしごむはえんぴつで書いた所を  
消してくれる物

便利で使いやすいよね

でも私は思うんだ

心のキズや私の悪い所も

消してほしいな

もし消せたら友だちともっとなか良くなれるかなあ

でも消えないんだなあ

心のキズや私の悪い所は

自分で直して行かなきゃな

それが人間だと思うよ

自分でなんとかしなきゃ

けしごむは

心のキズや悪い所は消せないけど

まちがえて書いた物が消せる便利な物

優良賞

夕顔の実

結城市立結城小学校 六年 飯田 啓生

やさしい黄緑色の夕顔の実

さかさまにくしにさされて

すじいいきおいで機械からとび出してくるたくわんの

ハチマキたち

一日中風にゆられるハチマキ

真っ白いハチマキのカーテン

まっすぐだったハチマキは

ぐるぐるくねくね一日がん張って

ぐったりつかれたハチマキに

かんぴょうってこれなの？

空と雲

結城市立結城小学校 六年 小西 陽泰

空と雲って何だか不思議  
だって雲は自由にすがたを変える  
羊雲とか、うろこ雲とか  
だれも羊雲になれ  
なんて言っていないのに  
でもだれかが言わなければ  
ならないんじゃないかな  
わざわざきれいに整列して  
羊雲とかうろこ雲を作らないと思う  
もしかしたら空が言っているのかな  
空のきげんが悪ければ  
雲に雨雲になるようになって  
言うのかな  
なんか空と雲って関係があるのかな  
なにかでつながっているのかな  
空ってえらいのかな  
空と雲って何だか不思議

「ピンクの夕焼け」

結城市立結城小学校 六年 宮本 みゆ

ある日、ふと空を見上げた  
屋根の上がピンクにそまっている  
急いで二階にかけ上がった  
やっぱり、きれいなこいピンク色  
私の心も、きれいなピンク色になった  
夕焼けの色って、何色？  
赤かオレンジ  
でも、今日は、ピンク!!  
不思議だけれど、何だかうれしい  
明日は、いいことがあるそう・・・  
毎日、夕方になると空を見上げる  
ピンクの空は、もう三回目  
ながめていると、心がほんわか温かい  
だんだん、うすいピンクになり消えていく  
今日のイヤなこと消えていった

優良賞

新鮮な海を泳ぐ魚

結城市立江川北小学校 六年 川股 惺也

今吹いている新しい新鮮な風は  
海をやさしく揺らしている  
やさしい波が魚を運んでいる  
魚はうれしそうに運ばれていく

今度は強い風が吹いてきた  
波の動きが激しくなっていく  
魚はじっと耐えている  
嵐が去るのを待っている

強い風がだんだんやんできた  
激しい波もだんだんおさまった  
嵐が去っていった  
魚はうれしそうに笑った

朝日がやさしく照らしました  
波も穏やかになってきた  
やっぱり新鮮な海だ プクプクプク  
今日はどこにお散歩に行こう

優良賞

足音がする

結城市立上山川小学校 六年 岩田 大夢

いつものように外にでて歩いている  
とくとくとくと  
足音をたてながら歩いている  
道をとくとくと  
足音をたてながら歩いている。

とつぜん、後ろからとくとくと  
足音がきこえてきた  
後ろをむいたらだれもない

なんでだろ  
ぼくは足音をたてながら走っている  
スタタタ・・・と、けれど  
後ろからずつととくとくとと  
足音がきこえる

ぼくはこわくなってきました。  
スタタタタタビューンと、  
ぼくは家にかえってすべふとんの中でねた。

優良賞

生きる

結城市立結城西小学校 六年 坂本 裕星

テレビのニュース くぎづけで見た  
変わらない毎日が 数分でいっぺんして  
信じられない世界が広がっていた  
僕は目をそむけたい気持ちになったけど  
しっかりと 目を開けて見た  
なみだがでてきそうになる  
あふれそうな 気持ちをおさえて  
テレビの前 ひざをかかえて見た  
次の日も 次の日も・・・  
なにか 出来ないだろうか？  
僕は毎回 悲しいニュースに  
僕はみづめなおす  
無力だけど わずかだけど  
よりそう気持ちを 大切に  
明日へとしっかり進むんだ  
毎日が来ることに 感謝して  
僕は 生きていく

優良賞

お・ば・け・も・の

結城市立結城西小学校 六年 佐久間 ひとみ

おばけもの  
バケモノに「お」を付けてみた  
おバケモノにしてみると  
こわくなくなった  
おばけものは「お・ば・け」  
バケモノは こわいもの  
化けて出る ようかい  
とってもおそろしい  
でも おばけものは バケモノじゃない  
おばけものは 「お・ば・け」  
おばけものは こわくない  
私のことを 見守ってくれる  
助けてくれる  
そっと応援してくれる  
バケモノとおばけは  
全然ちがう  
おばけもの おばけもの  
おばけものは バケモノじゃない  
おばけものは 「お・ば・け」

優良賞

わたし

結城市立結城西小学校 六年 嶋田 木々音

マイペースなわたし、おだやかなわたし  
人見知りなわたし、出しゃばらないわたし  
おくびょうなわたし、慎重なわたし  
わたしはわたしを好きじゃない  
でも、妹はわたしと遊びたがる  
お姉ちゃんは発想が面白いと言ってくれる  
おばあちゃんはイイ子だねと言ってくれる  
お母さんはいやされると言ってくれる  
お父さんは自分で考える力があると言ってくれる  
わたしは自分で思っているより頑張ってるのかも  
わたしの良いところがいろんな人に伝わるように  
わたしがわたしの好きなおところを言えるように  
もうちょっと自分を好きになって頑張ってみようかな

優良賞

風の語り手

結城市立結城中学校 一年 青山 善輝

風が僕に語る  
草木をふるわせ波に乗り  
羽ばたく鳥の音になれと  
風が僕に語る  
あの子の髪の毛をなびかせ  
僕の心は透き通る  
風が僕に語る  
砂を舞上げ  
自由な空へと誘いかける  
風が僕に語る  
僕の背中おし  
白紙の地図になるように  
風が僕に語る  
僕は風に答える

## 優良賞

### 青葉が見た景色

結城市立結城南中学校 二年 石島 帆人

青葉が見た高い景色

固く長い物が並んで見えた

青葉が見たあたたかい景色

花々が風とともにゆらゆらしていた

青葉が見た暑い景色

虫の音がかゲロウとともに響きあった

青葉が見たすずしい景色

友達が風にのって散ってゆく

青葉が見た見にくい景色

しかいにうつらない白は色を消していく

うつすら落ちる自分自身

自身はもう青葉ではない

かれ葉が見た最後の景色

それは見ることでできないさびしい景色

戻りたくても戻れない

悲しくて

びんごくな

時の導き

## 優良賞

### 無数の足音

結城市立結城東中学校 二年 アントキ メイ

道や土やじやりを歩く無数の音

どれだけの時間でこの音を聞くのだろう

道を歩く音は計りしれない音だ

いわば楽器

歩けば歩くほどどんどん音がかなでる

一人や大勢の人でも

かなでる無数の音

聞けば聞くほどいい無数の足音だ

道を歩くことがとてもいい無数の

かなでる良い楽器だと

## 優良賞

### 僕らの未来

結城市立結城東中学校 二年 飯島 啓太

僕らは何かに向って生きている  
それが限りあるものなのか  
または果てしないものなのか  
そのことについて誰も知らない  
分かっていることは  
僕らの先にあるということだけだ  
その「何か」は  
自分だけにしか触ることはできない  
僕らの在り方生き方しだいで変化する  
「何か」を知るためには  
そう 自分で道をつくり  
自分の力で手に入れなければならない  
しかし「何か」を手に入れたあとも  
その道が終わることはない  
自分だけの「何か」が存在する限り  
僕らの未来は在り続ける

## 優良賞

### 一つだけの魔法

結城市立結城南中学校 三年 赤岩 りせ

笑顔はね  
人の心や周りの空気を変える  
魔法だよ  
今日もあの子はふりまいてる  
キラキラと輝いて  
他の子もつられて  
魔法を使ってる  
一つだけ魔法じゃないのが見えた  
あの子は笑ってる  
でも、輝いてない  
本当の笑顔じゃないから  
きつと無理をしているんだ  
辛い時は、泣いてもいいんだよ  
その後、魔法を使えばね  
ほら前を向いて魔法見せて  
今日もあの子は笑ってる  
キラキラと輝いて  
君も魔法を使ってるね



優良賞

感情ばかり、気持ちばかり

茨城県立結城第二高等学校 一年 稲葉 彩弥

何を言えばいいか分からない  
死にたいと言う君に  
私は何と言うのが正解なのか  
死なないでと  
生きてと  
いつもこの言葉ばかり  
君を助けない  
君の力になりたい  
そう願うだけで  
現実は何もできない非力な人間だ  
感情ばかり先走り  
心がつらいと悲鳴をあげる  
気持ちばかり先走りの  
言いたいことも言えなくなる  
あの時 私は  
何と言えはよかったの

優良賞

過去 現在 未来

茨城県立結城第二高等学校 三年 馬場 毬乃

今ここ私は過去につながる  
過去のために今がある  
あのときのもやもやも晴れて  
ストーンと腑に落ちる時が来るかもしれない  
その一瞬のために  
今ここ私は未来につながる  
未来のために今がある  
ありきたりかもしれないけれど  
未確定なことだとしても  
どこかの一瞬のために  
過去があるから未来があって  
だから今ここ私がいて  
未来は今に 今は過去になっていく  
だとしたら  
いつか来るその一瞬のために  
今ここ私は今につながる  
今のために現在がある

## 優良賞

### 涙の理由

茨城県立結城第二高等学校 四年 生井 綾乃

息をひそめるみたいに  
水色が散る 雨が降る  
誰の涙の代わりなのか  
それは今日も止まなくて  
空に連れ出さなくなった  
この、どこかで泣いてるあなたのこと

長靴をはいた猫なんかじゃなくて  
スニーカーはいた ただの人間だけ  
この手を取ってみてくれないか

そのまま大空へ！ しっかりとつかまってて  
感情乱気流があばれてるけど  
それすらもジェットに変えて

「泣かないで」なんて言わないよ  
君が君自身のために これだけ悲しめる証を  
僕はバカになんてしない  
恥じることも 隠すこともないさ

でも  
それを分かってくれる人だけじゃないし  
ほら、雲の上！  
ここなら思い切り泣けるでしょう？

弱気になるなら 弱気になって  
それだけ痛いことだったんだから  
仕方ないだろう  
僕は全部聞かし、突き放しもしないからね  
さあ 聴かせてよ 君の涙の理をさ。

